

令和8年度 地域デザイン科学研究科経済経営専攻
入学試験問題（一般入試 B日程）

専門科目：マクロ・ミクロ経済学

以下のA群から1問、B群から1問を選択し、解答しなさい。なお、どの問題に解答したかを明示すること。

[A群]

（設問A-1）

以下の式で表される小国開放経済におけるIS-LM-BPモデルを考える。ただし、国内と外国の物価水準は1で固定し、名目と実質の区別はしない。

$$\text{IS 曲線： } Y=C(Y)+I(r)+G+NX(Y, Y^W, e)$$

$$\text{LM 曲線： } M=L(Y, r)$$

$$\text{BP 曲線： } r=r^W$$

上式において、 Y は国内の産出量（GDP）、 Y^W は外国の産出量（GDP）（所与）、 r は国内金利、 r^W は外国金利（所与）、 e は為替レート（外国通貨1単位を購入するために必要な自国通貨の額）、 $C(Y)$ は Y に依存するケインズ型消費関数、 $I(r)$ は r に依存するケインズ型設備投資関数、 G は政府支出、 $NX(Y, Y^W, e)$ は Y と Y^W と e に依存する純輸出関数、 M は貨幣供給量、 $L(Y, r)$ は Y と r に依存する貨幣需要関数である。なお、貨幣需要関数における「流動性のわな」が発生している状況は考えない。また、純輸出関数におけるマーシャル=ラーナー条件、自国と外国の間の資本移動に関する完全可動性も満たされているとする。このとき、以下の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(1) 変動相場制のもとで、政府支出 G が増加すると、純輸出 NX はどのように変化するか？理由と共に答えなさい。

(2) 固定相場制のもとで、政府支出 G が増加すると、純輸出 NX はどのように変化するか？理由と共に答えなさい。

（設問A-2）

小国開放経済のA国を考える。このとき、実質為替レートに関する「バラッサ=サミュエルソン効果」について、以下の(1)と(2)の問いに答えなさい。ただし、A国の貿易財価格については外国のそれとの間で一物一価の法則が成立するものとする。また、労働者は国内の貿易財生産部門と非貿易財生産部門の間を自由に移動できるが、外国には移動しないものとする。

(1) 「バラッサ=サミュエルソン効果」に基づくと、A国の実質為替レートはどのように決定されるか？簡潔に説明しなさい。

(2) 他の条件を一定として、A国の貿易財生産部門の労働生産性が上昇したとすると、A国の実質為替レートはどのような影響を受けると考えられるか？(1)の解答に基づいて、簡潔に説明しなさい。

[B群]

(設問 B-1)

市場には多数の生産者が存在し、完全競争的に生産が行われている。この市場の需要曲線は $P = a - bQ$ 、供給曲線は $P = bQ$ で表されるとする(ただし、 a, b は正の定数)。この時、以下の設問にすべて答えなさい。

- (1) 市場の均衡価格(P^*)と均衡数量(Q^*)をそれぞれ求めなさい。
- (2) 市場均衡における消費者余剰と生産者余剰をそれぞれ求めなさい。
- (3) ここで政府が消費者を保護するため、価格の上限を $c(< P^*)$ に設定するとする。価格規制均衡における消費者余剰と生産者余剰、死荷重をそれぞれ求めなさい。
- (4) (2)と(3)で求めた消費者余剰を比較すると、政府の価格規制によって、消費者は必ず得をしていると言えるか。計算結果に基づいて、その理由を述べなさい。

(設問 B-2)

市場には企業1と企業2の2つの生産者のみが存在し、各企業は他企業の数量を所与として、自身の数量を決めるクールノー競争で生産が行われている。この市場の需要曲線は $P = 10 - Q$ 、企業1の総費用曲線は $TC_1 = 2q_1$ 、企業2の総費用曲線は $TC_2 = q_2$ で表されるとする(ただし、 q_1, q_2 はそれぞれ企業1、企業2が設定する数量を表し、 $q_1 + q_2 = Q$ を満たす)。この時、以下の設問すべてに答えなさい。

- (1) 企業1は価格 p_1 、企業2は価格 p_2 をつけるとする。各企業の他企業に対する反応関数を求めなさい。
- (2) クールノー均衡における各企業の数量と各企業の利潤を求めなさい。
- (3) 生産に1の固定費用を要し、各企業の総費用曲線が $TC_1 = 2q_1 + 1, TC_2 = q_2 + 1$ で表されるとする。この場合のクールノー均衡における各企業の数量や利潤はどのように変化するか。計算結果に基づいて、その理由を述べなさい。